

第2章

まちづくりの課題の整理

1 まちの現況・特性の整理

2 まちづくりの課題

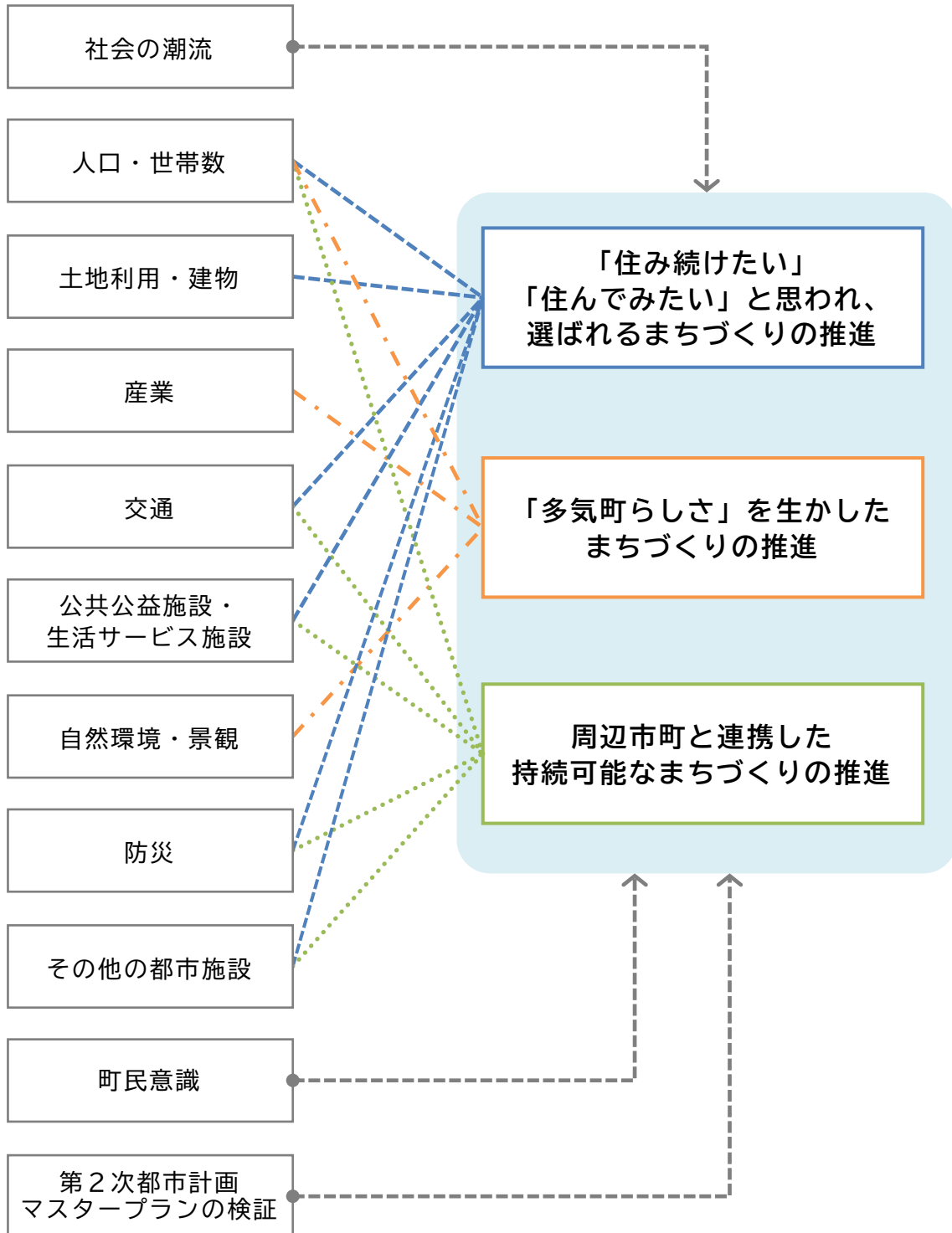
1 まちの現況・特性の整理

第1章で整理した社会の潮流、多気町の現況・特性、第2次都市計画マスタープランの検証を踏まえ、まちづくりの課題の視点を整理します。

社会の潮流		
<ul style="list-style-type: none"> ●コンパクト・プラス・ネットワークの推進 ●災害の頻発化・激甚化に対応した国土の強靱化 	<ul style="list-style-type: none"> ●カーボンニュートラルの実現 ●デジタル社会の進展 ●民間活力の活用 	
多気町の現況と今後の方向性		
人口・世帯数	・将来的に人口減少や高齢化がより進行していくことを見据えた、子育て世代や高齢者などの多様な世代が住みやすい住環境の形成による、「住み続けたい」「住んでみたい」と思われ、選ばれるまちづくり	
土地利用・建物	・すでに都市的土地利用となっているエリアや用途地域を中心に、拠点となる市街地の整備の推進と自然と調和した市街地・集落地の形成 ・徐々に増加している空き家の利活用	
産業	・多気町の特性を生かしつつバランスのとれた産業構造の形成による安定して働ける場を創出	
交通	・公共交通のサービス水準の維持と町民のニーズに対応したサービスの提供 ・道路は人だけでなくモノの移動にも関わるため、未整備区間の整備の促進による人やモノの円滑な移動と交流を促す軸の形成	
公共・公益施設・生活サービス施設	・今後も多気地域、勢和地域の各拠点へ施設を集積させることによる、徒歩及び公共交通により利用しやすい環境の維持・充実	
自然環境・景観	・豊かな自然環境、貴重な動植物の生態系、農業環境を保全し、人と自然が共生できる環境に配慮した地域づくり ・環境への負荷の低減による環境にやさしいまちづくりの推進	
防災	・大地震、大雨による浸水、土砂災害などの災害危険性を踏まえた、ソフト・ハード両面からの防災・減災対策の実施	
その他の都市施設	・既存施設の適正な維持管理や更新の実施	
町民意識		
住みやすさ	・「住みやすい」「どちらかと言えば住みやすい」と回答した割合は68.6%（平成28年）→71.6%（令和6年）と上昇	
定住意向	・多気町に「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」と回答した割合は5.8%（平成28年）→79.2%（令和6年）と上昇	
将来のまちのイメージ	・「生活環境に優れた住みやすい住宅地を中心としたまち」や「山や川などの自然環境が豊かなまち」の回答率が高い ・「商工業が発展した活力あるまち」「農業が盛んなまち」のイメージは低下	
重点的に改善が必要な取組	・重点的に改善が必要な項目（満足度：低い／重要度：高い）は、公共交通機関の利便性、生活道路の整備状況、小中学校の通学路における交通安全性、高齢者等が安全に移動できる空間の整備状況、医療施設や福祉施設・福祉サービスの充実度、河川や排水路などの整備による治水対策の8つ。	
第2次都市計画マスタープランの検証		
実施中・継続中	<ul style="list-style-type: none"> ・相可台団地や相可駅北～相可高校周辺の住環境の維持・向上 ・用途地域による商業・工業の機能維持・向上 ・広域交流拠点である商業リゾート「VISON」の開業 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家対策の実施 ・観光施設・公園の整備・充実 ・交通安全対策、河川の土砂浚渫 ・勢和地域の拠点施設である勢和振興事務所・勢和公民館の整備
未実施	<ul style="list-style-type: none"> ・多気駅周辺の住宅地整備や交通結節点としての整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路沿道への工業地の誘導 ・医療施設の誘導

●まちの現況・特性など

●まちづくりの課題の視点



2 まちづくりの課題

人口減少下でも、生活サービス施設や公共交通などのサービス水準を保つため「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市構造への転換を図ること、個性的で魅力的な地域づくりを図ることを踏まえ、3つの視点で課題を整理します。

視点①「住み続けたい」「住んでみたい」と思われ、選ばれるまちづくりの推進

課題1 人口減少下でもサービス水準を維持・充実する都市構造への転換

- ・この間人口減少が一層進行しており、人口減少下でも、生活サービス施設や公共交通などのサービス水準を保つため、国が進める「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市構造へ転換していくことが必要です。
- ・そのためには、すでに生活サービス施設が集積しているエリアへ都市機能や居住を誘導し、医療・福祉・商業・教育などのサービス水準の維持・充実に回りつつ、人口密度を維持することが必要です。

課題2 持続可能で効率的な交通ネットワークの形成

- ・高齢化の進展により、車の運転に不安を抱える人が一層増加することが想定されます。高齢者が免許返納をためらう理由の1つに返納後の移動手段がないことが考えられるため、安心して外出できる移動手段の確保が必要です。
- ・車の運転できない学生などの通学手段を確保するため、鉄道やバスの運行本数増加、鉄道・バスの接続見直しなども求められます。

課題3 災害に強い安全・安心なまちづくりの推進

- ・南海トラフなどの地震、河川の氾濫による浸水、集中豪雨などによる土砂災害の危険があるため、ハード的な建物の耐震化の推進や河川の氾濫や急傾斜地の崩壊への対策の推進・強化に加え、ソフト的な対策も推進し、安全・安心なまちづくりを進めていくことが必要です。

視点②「多気町らしさ」を生かしたまちづくりの推進

課題4 「多気町らしさ」を活かした産業・観光の振興

- ・新たな産業動向として、令和3（2021）年7月に日本最大級の商業リゾート「VISON」がグランドオープンし、令和3（2021）年4月に「多気ヴィソンスmart IC」が開通しました。
- ・官民連携により整備・運営が行われているごかつら池ふるさと村、相可高校と町内の製薬会社が共同開発する化粧品、自転車や観光資源を利用したヘルスツーリズムの開発など、産学官の連携による取組が進められています。
- ・これらの動きを踏まえ、既存の農業や製造業を中心とした産業に加え、健康・医療・美容などの複合的な工業機能の導入や観光振興を推進し、**バランスのとれた産業構造を形成**するとともに、**個性的で魅力的な地域づくり**が必要です。

課題5 恵まれた自然環境の保全・活用による地球環境にやさしいまちづくりの推進

- ・櫛田川、佐奈川や山林等の豊かな自然環境、貴重な動植物の生態系、優良農地を保全し、**人と自然が共生できる環境に配慮した地域づくり**が求められているため、開発にあたっては里山などの自然をできる限り存置し適正な管理を行うとともに、施設の緑化を推進する必要があります。また、**歴史・文化資源を活かした個性的で魅力的な地域づくり**を進める必要があります。
- ・地球温暖化がもたらす気候変動問題は世界規模で問題となっており、温室効果ガス排出量の削減に取り組むことが求められています。多気町は令和3（2021）年に広域6町でゼロカーボンシティを宣言しており、環境への負荷を低減し、**環境にやさしいまちづくりを推進**していくことが求められます。

視点③周辺市町と連携した持続可能なまちづくりの推進

課題6 広域連携による高齢化社会を見据えた生活サービス機能の確保

- ・救急医療など、町内において不足する医療・福祉などの生活サービス機能については、全てを町内で解決するのではなく、**松阪地域定住自立圏内での連携により確保し、圏域内での人口維持と持続的な都市経営**が求められます。
- ・一自治体で開発・運用することが困難なデジタル技術活用について、**少子高齢化などの共通の課題を持つ周辺市町と連携**し、人々が住みたくなる健康で安心なまちづくりを目指して取組を進めていくことが求められます。